

月刊 学・思・貫

寄宮中学校だより

VOL.03 2020.6.19

発行：校長 前田



「慰霊の日」に考える

6月は沖縄にとって特別な月です。沖縄の学校では、「慰霊の日特設授業」に長い間取り組んできました。悲惨な沖縄戦を知ることで、平和の大切さを考える大切な季節です。

「平和」の反対は「戦争」だけではありません。私たちの周りには、いまだに「平和」とは呼べない痛ましい事柄がたくさんあります。「いじめ」もそのひとつです。偏見や差別もそうです。戦争体験者の高齢化にともない「慰霊の日特設授業」の実施が難しくなっているという報道も多くなり、特設授業の廃止という声も聞かれます。

慰霊の日は、沖縄戦のことを知る日でもあります。それだけではなく、私たちの「平和」について、みんなで考える日でもあります。遠い過去のことではなく、今の私たちの周りにある身近な問題として、「平和」を考える日なのです。マザーテレサは、「愛」の反対は「無関心」と答えました。マザーテレサの生き方がこの答えを導き出しました。「平和」の反対は？ しっかり考えて、自分自身を見つめ、家族で話し合っ、あなたの答えを出して下さい。

寄宮中学校 本格始動！

部活動結成式(6/16)

学校は再開したものの、新型コロナの影響で、例年とは違う様々な対応が引き続き求められています。部活動についても、インターハイや甲子園が中止になり、全国・九州に続き中体連の沖縄県大会も中止となりました。この通知が学校に届いた日、生徒の皆さんがテレビのニュースでこのことを知るのではなく、本校の先生たちから伝えたいと考え、部活生の臨時集会を持ちました。中体連の係の新垣泰司先生から説明する予定でしたが、新垣先生は生徒を前にすると泣いてしまっ、話ができなくなってしまい、代わりに教頭先生が話をしてくれました。私は、生徒の声が聞きたかったので、サッカー部の與儀實春さんを指名しました。彼は中体連県大会中止を聞いた感想を、最初、「これまでチームメイトと積み上げたことが無駄になってしまう。悔しい。」と話しました。それからしばらく沈黙があり、「無駄にはならない。ここはまだ通過点だから。」と言い直しました。これは、寄宮中部活生のみんなを代表する意見で、多くの生徒が同じように感じているようでした。ですから、部活動結成式には、多くの3年生も参加してくれました。県大会のあるなしにかかわらず、最後まで、しっかり部活動に取り組みましよう。この体験は、君たちを大きく成長させてくれるでしょう。

保護者の皆様、ご参加ありがとうございました。各部の結成式後に行われた代表者会も和やかで建設的な集まりとなりました。「私たちはコロナに負けない」と、保護者の方々の態度からも伝わってきました。協力して特別で輝く一年に。

学級 PTA(6/16)

たくさんの保護者の皆様にご参加いただきました。ありがとうございます。今年度の人事異動では多くの職員が入れ替わりました。新しい職員を保護者の皆様を紹介する機会もなかなか持てないでいます。学級 PTA が担任と初めての顔合わせとなったかもしれません。学級担任を中心に、家庭と学校でしっかり連携を。